

京山オリジナル袋帯

奈良正倉院

この帯は、**正倉院宝物**の中の染物・織物である正倉院裂（しょうそういんぎれ）に由来する「**正倉院文様**」が織り込まれています。

正倉院宝物は、そのほとんどのものが奈良時代の遺品です。遣唐使の手によって波濤をこえて大陸から舶載され、あるいは**我が国で製作された美の結晶**です。正倉院はまた、シルクロードの終着駅とも呼ばれています。

その起点は地中海に発し、ギリシャ・ローマ・エジプトからペルシャ・イラン・インドを通して中国に達する絹の道、シルクロード。その絹に織り込まれ、染め上げられているのは幸せへの祈りの気持ちです。

この袋帯をご覧ください。

唐草文（からくさもん）はギリシャで生まれ世界中に広まった、ものごとが途絶えることなく永遠に続くことをあらわす文様だとされています。ともにあしらわれた花は、**繁栄の象徴**です。

また、花木の左右に飛鳥が描かれています。**左右に翼を広げた鳥は、瑞鳥（ずいちょう）**といわれるおめでたい鳥、**鳳凰**です。

ひととき目を引く豪華な花文様は正倉院大華文です。**永遠をあらわす唐草文様**にその時代にふさわしく花のイメージを与えたものとみられます。**ボタン（牡丹）やシャクヤク（芍薬）、フヨウ（芙蓉）**などを思わせる豪華さに限りない繁栄への願いを込めたと思われます。



私がこの作品を作るにあたって、まず心に浮かんだのは、この帯を手にした貴方が昔見たオリエントの青い空に浮かぶ虹のようにきらめく女性になっていただきたいという思いでした。

虹のような織物で袋帯を作ろう。そして重厚な唐織に虹色に輝く偏光糸をあしらうことにしました。糸は金と銀の二色を用い、帯を締めていただいたとき、ふとした仕草であなたがきらめく光をまとうように幸せの柄を配しました。

女性がきらめくには、やはり内面が豊かであることが大切です。

- ★喜 喜びを感じて幸せに生きること
- ★楽 楽観的に受け止めて元気でいること
- ★明 気持ちを明るく持って笑顔でいること
- ★希 明日という日を望みを持って迎えること

こんな風に毎日を過ごせたら、きっとあなたはきらめく女性になれるとおもうのです。

